

「清くされたのは十人ではなかったか、他の九人はどこにいるのか」。今日の福音のイエスさまのこのおことばは、わたしたちの胸に突き刺さります。イエスさまはどんな声音でこのように言われたのでしょうか。イエスさまに出会って清くしていただけたのに、イエスさまのもとに戻って来ない九人の人に対する怒りを露わにした裁きのことばだったのでしょうか。それとも、イエスさまのもとに戻って来ないその人たちに対する嘆きのお声だったのでしょうか。

あの時、「イエスさま、どうかわたしたちを憐れんでください」という重い皮膚病を患っていた十人の人たちの願いに応じて、イエスさまがその場で癒してくださいっていたら、あの十人は十人ともイエスさまの足元にひれ伏して感謝していたことでしょう。イエスさまがそうはなさらなかったことが、わたしたちには不思議に思えます。

イエスさまがあの時そうはなさらなかったのは、今日の福音に語られている、重い皮膚病を患っていた十人の人たちの癒しと、癒されて清くなった人々のそのことに対する反応という出来事の全体が、わたしたちのためのメッセージとなることを望まれたからかもしれません。

今日の福音は、重い皮膚病を患っていた十人の人たちの願いに応じてイエスさまがその人たちを癒してくださいった前半の部分と、そのことに気づいたあの人々の行動を語る後半の部分に分けることができます。まず今日の福音の前半の部分からご一緒に味わってみたいと思います。

「先生、わたしたちを憐れんでください」とあの人たちが願った時、イエスさまは彼らをご覧になって、「祭司たちのところへ行って、その体を見せなさい」と言われています。彼らの願いを聴き、彼らの哀れな状態をご覧になられた時、イエスさまのお心が動かされなかったはずはありません。それで十分だったのです。だから、イエスさまは「祭司のところに行って、あなたがたのからだを見せなさい」と言われたのです。彼らのからだに何の変化も起きず、重い皮膚病が清められなければ、わざわざ祭司のところに行って、そのことを確かめてもらう必要はないのです。あの時、重い皮膚病に苦しんでいた人たちが願い求めたことは、まだ何一つ起こっていないのに、イエスさまには彼らの願い求めたとおりのことが実現していることが見えているかのようです。だから、イエスさまは彼らにあのように言われたのです。

このことは、先週の日曜日の福音を思い起こさせます。地中深く根を張る桑

の木を一言で海に移し植えるというようなことも、からし種一粒ほどの信仰があれば可能になる。信仰とは不可能と思われることを可能にしてくださる、全能父である神への信頼そのものだからだ。そう教えられたイエスさまは、ご自身がそのような父なる神への信頼そのものの信仰を生きておられることを、今日の福音の出来事の中に示されているように思えます。そして事実、あの人たちが祭司のところへ行く道の途中で、イエスさまが彼らのために願ってくださったとおりのことが、彼らの身に起こり、あの人たちは癒され、清くされたのです。ここまでが今日の福音の前半です。

しかし、最初にも述べたように、わたしたちは今日の福音の後半の部分にも心を向けるよう求められています。

ここでは、イエスさまのもとに戻って来て、その足元にひれ伏して感謝したのは、あの人たちのうちの一人だけで、その人はサマリア人だったと語られています。その人についてのイエスさまのおことばの中で、このサマリアの人が外国人、つまり、異邦人と呼ばれていることには、特別な意味が込められているかもしれません。どういうことかと言うと、この人のほかの九人はそうではない、つまりユダヤ人であったと思われます。その九人の人たちも、自分たちが癒していただけたことに感謝しなかったはずはありません。彼らはイエスさまに言われたとおりに祭司のところへ行って、祭司の指示にしたがって、清められたことへの感謝のいけにえを捧げて、神に感謝したことでしょう。それが旧約以来のユダヤの律法に規定だからです。けれども、彼らは自分たちを癒し、清めてくださったイエスさまのもとに戻って来ることはなかったのです。

それに対して、あのサマリアの人が他の九人の人たちと道に行く途中、自分の身に起こったことに気づいて、イエスさまのもとに戻って来たのは、彼がユダヤの律法の外にいた人だからです。そして、そのようにイエスさまのもとに来て、その足元にひれ伏して感謝をささげたその人にイエスさまは「あなたの信仰があなたを救った」と言ってくださるのです。このような福音書の語り方には、後に福音書が書き記された最初の教会の時代になって、イエスさまによってもたらされた救いの業が、旧約の神の民であったユダヤの人々の律法の世界を超えて、異邦人と呼ばれていた人々の中に広がって行ったことが視野に入れられているのかもしれませんが。今日の福音は、そのようなイエスさまの救いのみわざの広がり、あのサマリアの人へのイエスさまのおことばによってすでに始まっていたことを語ろうとしているのです。

今日の福音に即して言うなら、わたしたちのキリスト教の信仰は、わたしたちが願い求めていることを、イエス・キリストさまに訴えるということです。それがキリスト者としてのわたしたちの祈りのあり方です。そして、そのよう

なわたしたちの願いが聞き届けられたなら、あのサマリアの人のようにイエスさまのもとに戻って来て、感謝をささげるのです。そして、あの人と同じように、「あなたのその信仰があなたを救った」とのイエスさまのおことばをこの身に受けて、イエス・キリストさまへの信仰によって救われた者として、わたしたちはキリスト者とされるのです。

イエスさまによってもたらされた癒しを経験しても、十人のうち九人の人たちは、ユダヤ人としての彼らの律法の社会に留まり続け、イエスさまのもとに戻ってくることはありませんでした。今のわたしたちの社会も同じかもしれません。聞き届けてもらいたい願いはわたしたちもたくさん抱えています。そして人生の道の途中で出会ったイエスさまにその願いを訴える人も少なくはないかもしれません。けれども、そうやって、たとえその願いが聞き届けられても、そして、そのことに感謝を感じていても、あのサマリアの人のようにイエスさまのもとに戻ってくる人は十人の中の一人よりも少ないかもしれません。多くの方は、あの九人の人たちと同じように、自分たちの社会の枠の中に留まったまま、イエスさまのもとには戻って来ることはなく、「あなたの、わたしへの信仰があなたを救ったのだ」というイエスさまのおことばを感謝のうちに聞くこともないのです。

誰か他の人のこととしてではなく、わたしたち一人ひとり、自分自身の信仰生活を振り返るために、このことを考えてみたいと思います。そして今日のわたしたちのミサが、「あなたの信仰があなたを救った。あなたを救っている」とのイエスさまのおことばへの感謝となるよう祈り求めたいと思います。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高